

測定値が維持管理計画値を超過した理由(※)

<逸脱理由>

*① 渋谷清掃工場 1号炉 令和3年8月7日(土)23:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が、一時間平均値で112ppmを記録した。

原因は、燃焼が不安定となり、燃焼空気が不足したことによる。

直ちに燃焼空気量の調整及び蒸発量設定値の変更による燃焼改善を図ったが、

正常な燃焼状態に回復しなかったため、焼却炉内確認及び設備点検のため焼却炉を立ち下げた。

*② 渋谷清掃工場 1号炉 令和3年8月11日(水)20:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が、一時間平均値で72ppmを記録した。

原因は、燃焼が不安定となり、燃焼空気が不足したことによる。

直ちに燃焼空気量の調整及び蒸発量設定値の変更による燃焼改善を図ったが、

正常な燃焼状態に回復しなかったため、炉床の状態確認及び燃焼方法の確認のため

一時的にごみ供給を停止した。

*③ 渋谷清掃工場 1号炉 令和3年8月12日(木)16:00、17:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が、一時間平均値で令和3年8月12日16時に66ppm、

17時に64ppmを記録した。

原因は、燃焼が不安定となり、燃焼空気が不足したことによる。

直ちに燃焼空気量の調整及び蒸発量設定値の変更による燃焼改善を図ったが、

正常な燃焼状態に回復しなかったため、炉床の清掃及び点検のため焼却炉を立下げた。

*④ 渋谷清掃工場 1号炉 令和3年8月20日(金)2:00

燃焼室ガス温度が、一時間平均値で849℃を記録した。

原因は、ごみ供給装置停止中に、再燃バーナの失火が多発したことによる。

直ちに燃焼空気量の手動介入、助燃バーナの運転、失火検知装置清掃を実施し燃焼改善を図ったが、

正常な燃焼状態に回復しなかったため、計画停止(中間点検)を前倒しし焼却炉を立ち下げた。

*⑤ 有明清掃工場 1号炉 令和3年8月3日(火)14:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が、一時間平均値で141ppmを記録した。

原因は、給油配管からの油漏れによりストーカ駆動装置が停止し、燃焼管理ができなくなったことによる。

その後、復旧の見込みがなかったため、焼却炉を立ち下げた。

なお、焼却炉を立ち上げ、定常運転に移行した後は、維持管理計画値以下を維持した。

令和3年度 維持管理状況(8月1日~31日)<工場設置計器の測定結果>より